

2019年2月19日

大津市、京阪バス、日本ユニシス 大津市における自動運転シャトルバス実証実験を実施

～高齢社会における新たな移動手段、観光客の二次交通を実現するモビリティサービス創出に向けて～

大津市、京阪バス、日本ユニシスは、滋賀県大津市において自動運転シャトルバスの実証実験を2019年3月21日に実施します。

走行ルートは、大津市の中心市街地である琵琶湖畔とJR大津駅を結ぶ片道約0.7km、一般車両・歩行者との混在区間を乗客を乗せ走行します。

走行は自動運転レベル3（条件付自動運転）^(注)での運用を想定しており、実証実験中は乗客の安全確保のため運転手が搭乗し常に安全監視を行います。

本実証実験では、シャトルバスとしての運行を見据え、定間隔運行の実現可能性、自動運転バスに対する市民の受容性、シャトルバスに対する市民のニーズを検証します。

【背景】

近年バス業界では運転手不足が深刻化しています。一方で超高齢社会を迎え、自動車の運転に不安を覚える人たちが増える中で、高齢者などの交通手段の確保は喫緊の課題となっており、バスをはじめとした公共交通の重要性は年々増えています。

現在、こうした交通課題に対する解決策のひとつとして、自動運転技術やICTを活用した次世代型モビリティサービスに大きな期待が寄せられています。

【実証実験の概要】

大津市は、高齢者の移動手段や観光客の二次交通が不足しており、解決策の一つとして自動運転の実用化を目指しています。

本実証実験では、シャトルバスとしての運行を見据え、定間隔運行の実現可能性、自動運転バスに対する市民の受容性、シャトルバスに対する市民のニーズを検証します。実証実験の概要は以下の通りです。

1. 実施日時
2019年3月21日（祝） 10時30分～16時
※当日荒天の場合、翌日に延期します
2. 運行コース
琵琶湖畔からJR大津駅までの間の中央大通りを往復
3. 運行スケジュール
30分間隔で計9便
4. 乗車モニター募集

乗車モニターを 40 名募集します。(申込多数のときは抽選)

※当日荒天の場合は、実験は翌日に延期となり乗車モニターについては当日募集します。
※事前申し込み、および当日申し込みの詳細につきましては、2 月下旬に市ホームページにてご案内します。

【今後の展開】

本実証実験で得られた検証結果をもとに、大津市における超高齢社会における新たな移動手段と、観光客の二次交通を実現する新たなモビリティサービスを検討していきます。

京阪バスと日本ユニシスは、京阪バスが交通サービス運營業務により長年培ってきた知識と経験と、日本ユニシスが持つ次世代型モビリティ分野のビジネスアセットおよびシステムインテグレーションに関する技術や知見を連携させた、自動運転を活用した新たなモビリティサービスを提供することで、真に地域に求められるモビリティサービスを創造すべく、業種・業態の垣根を越えてさまざまな連携企業との協議を進め、自動運転をはじめとする次世代モビリティの社会実装を目指します。

以上

■注：自動運転レベル3（条件付自動運転）

日本政府や米国運輸省道路交通安全局（NHTSA）では、自動運転のレベルをレベル0～レベル5までを定義しています。レベル3は、加速・操舵・減速のすべてを自動車が扱い、緊急時のみドライバーが対応する状態のこと。

■大津市 <http://www.city.otsu.lg.jp/>

持続可能なまちづくりをテーマに「コンパクトプラスネットワーク」を推進する上で、自動運転技術を活かした新たな交通サービスによるネットワークの検討に取り組んでいます。

■京阪バス株式会社 <https://www.keihanbus.jp/>

京阪バス株式会社は大正 11 年 7 月に創立し、京阪沿線をはじめとする地域において、路線バス、高速バス、空港リムジンバス、定期観光バス、貸切バスなどのバス事業を通してバス輸送サービスを提供しています。路線バス事業では、大阪、京都、滋賀、奈良の二府二県にまたがるネットワークを有し、安全・快適・便利をモットーに「街と心を結ぶ」ため日夜走り続けています。近年では高齢化社会に対応して、乗り易くまた降り易い低床バスの導入や、運行計画においても気軽にご利用頂けるよう、きめの細かい路線設定を行うなどしています。またカード化の推進や ICT による情報の提供についても積極的に取り組み、地域の皆様に愛されるやさしい公共輸送機関を目指しています。そして、滋賀県大津市と「次世代型モビリティ（自動運転）の研究に関する協定」を締結するなど、新たな分野にも取り組んでいます。

■日本ユニシス株式会社 <http://www.unisys.co.jp/>

日本ユニシスグループは、60 年以上にわたりシステムインテグレーターとして顧客課題を解決し、社会や産業を支えるシステムを構築してきました。この経験と実績をバックボーンに、業種・業態の垣根を越えさまざまな企業をつなぐビジネスエコシステムの中核となり、顧客・パートナーと共に、社会を豊かにする新しい価値の創造と社会課題の解決に取り組んでいます。

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。